

HOME > 月見草・ γ -リノレン酸 (GLA) ・TOP > 月見草種子油6週間経口投与による血液透析患者の皮膚病変と血清必須脂肪酸分画の改善効果

月見草種子油6週間経口投与による血液透析患者の皮膚病変と血清必須脂肪酸分画の改善効果

古家恵子 a:, 吉本和夫 b:, 田中尊臣 b:, 齊間恵樹 c:, 菊池結花 b:, 越前宏俊 a:, Janet Shay d:, David F.Horrobin d:.

a: 明治薬科大学薬物治療学, b: 戸山クリニック, c: 国立国際医療センター 腎臓内科, d: Efamol Research Institute, Scotia Pharmaceutical Ltd, Guilford, Surrey, Uk.

【 要 約 】

血液透析患者の血清中の必須脂肪酸分画異常は、かゆみを初めとする皮膚病変の病因の一つと考えられる。オメガ6系 (n-6) の脂肪酸を経口投与することによる血清中必須脂肪酸異常と皮膚症状に対する改善作用の有効性を検討するため、無作為に抽出した9名の患者にガンマリノレン酸を豊富に含有する月見草種子油を、7名の患者にリノール酸をそれぞれ1日2g、6週間経口投与した。血清中の必須脂肪酸濃度はガスクロマトグラフィーで定量し、尿毒症性皮膚病変については二重盲検法による聞き取り調査と視診により、乾燥とかゆみおよび紅斑について評価した。月見草種子油投与群では血清中のジホモガンマリノレン酸 (抗炎症性プロスタグランジンE1の前駆物質) が有意 ($P < 0.05$) に上昇したが、アラキドン酸 (炎症性プロスタグランジンE2とロイコトリエンB4の前駆物質) は変化しなかった。

一方、リノール酸投与群ではリノール酸の有意 ($P < 0.05$) な増加が認められたが、n-6系の他の必須脂肪酸の増加は認められなかった。しかし、この群ではドコサヘキサエン酸(DHA)の有意 ($P < 0.05$) な低下が認められた。

尿毒症性皮膚病変に対する効果については月見草種子油投与群では、有意 ($P < 0.05$) な改善効果が認められ、特にかゆみではリノール酸投与群に比較して大幅 ($0.05 < P < 0.1$) な改善効果が認められた。この結果はGLA (ガンマリノレン酸) を豊富に含有する月見草種子油は血清中のn-6系必須脂肪酸前駆体濃度を正常化することで、エイコサノイド系をより炎症性の低い状態にすること、さらにこのことより月見草種子油は、リノール酸よりも有効なn-6系必須脂肪酸の供給源であることを示している。月見草種子油による尿毒症性そう痒症の治療について、有効性と安全性の確認の為、更なる研究が必要であると考えられる。